

ねぎ（秋冬どり）の黒斑病・葉枯病の発生が増加

～防除の徹底により蔓延を防止しましょう～

1 現在までの発生状況と今後の発生予想

ねぎ（秋冬どり）の9月1半旬の巡回調査（10地点）における発病株率は18.7%（平年7.0%）、発病地点率は100%（平年71.0%）でいずれも高かった（図－1、2）。

9月3日に仙台管区気象台から発表された東北地方1か月予報によると、向こう1か月の気温は高く、降水量は平年並か多いと予報されている。

以上のことから、今後、黒斑病・葉枯病（図－3、4）のさらなる増加が懸念されるため、以下の防除対策を徹底し、蔓延防止に努める。

2 防除対策

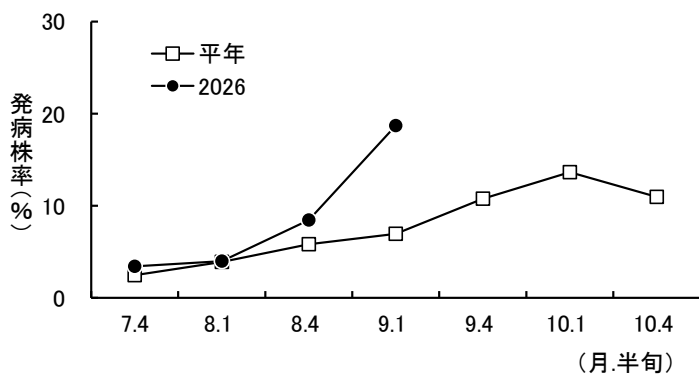
1）過剰施肥を避け、適正な肥培管理を行う。

2）黒斑病・葉枯病に効果のある薬剤を散布する（表－1）。なお、葉枯病の黄色斑紋病斑（図－4）は9月から発生が多くなるため、9月上旬～10月上旬に約10日間隔で薬剤を散布する。

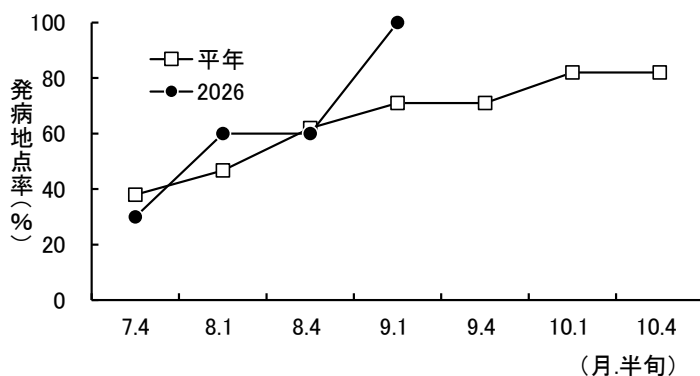
3）薬剤の使用時期（収穫前日数）には十分に注意する。ダコニール1000、テーク水和剤の使用時期は収穫14日前までのため、特に注意する。

4）さび病・べと病の発生や害虫による食害は、本病の発生を助長するため、他の病害虫の防除も合わせて行う。

3 資料



図－1 巡回調査における発病株率の推移



図－2 巡回調査における発病地点率の推移



図－3 黒斑病・葉枯病（斑点性病斑）



図－4 葉枯病（黄色斑紋病斑）

表－１　ねぎの黒斑病・葉枯病の防除薬剤一覧

RACコード	農薬名	希釈倍数〔散布液量〕	使用時期	本剤の 使用回数	各成分の 総使用回数
M5	ダコニール1000	1,000倍〔100～200L/10a〕	収穫14日前まで	3	ウ
3・M3	テーク水和剤	600倍〔100～200L/10a〕	収穫14日前まで	3	アイ
11	アミスター20フロアブル	2,000倍〔100～200L/10a〕	収穫3日前まで	4	エ
7	カナメフロアブル	4,000倍〔100～200L/10a〕	収穫前日まで	4	4
7	パレード20フロアブル	2,000～4,000倍〔100～200L/10a〕	収穫前日まで	3	3 ^{*1}

*1: 灌注及び浸漬は合計1回以内

ア: マンゼブ(3回以内)

イ: シメコナゾール(3回以内(は種時は1回以内))

ウ: TPN(4回以内(土壌灌注は1回以内、散布及び無人航空機散布は合計3回以内))

エ: アゾキシストロビン(5回以内(粒剤は1回以内、水和剤は4回以内))

【 問合せ先 】

秋田県病害虫防除所 TEL 018-881-3660

秋田県農業試験場 TEL 018-881-3326

掲載HP <https://www.pref.akita.lg.jp/bojo/>